

シリーズ
セーフコミュニティ認証取得への道
No.8

セーフコミュニティ活動報告 セーフコミュニティ推進担当より

セーフコミュニティ活動の紹介 (10月実施分)

☆平成24年度 松原市防災総合訓練実施

10月14日(日)、大和川西青少年運動広場において、昨年3月11日に発生し多くの犠牲者をもたらした東日本大震災を教訓として、平成24年度松原市防災総合訓練を実施しました。

この訓練は、未明に震度6強の地震が突如発生し、ライフラインが途絶え、多くの建物も倒壊するとともに、多数の負傷者と火災が同時に発生したとの想定のもと行われました。訓練では、セーフコミュニティ災



▶子ども綱渡り体験コーナーの様子



▶避難誘導訓練の様子



▶医療機関による応急処置訓練の様子

害時の安全対策委員会でも課題となっている、市民自らの手による救助活動・初期消火・避難誘導などの『自助』『共助』活動、炊き出しなどの自主防災活動を行うとともに、医療機関・行政機関相互の連携を確認しました。

訓練会場西側では展示コーナーが設けられ、各関係機関による防災・災害活動のパネル展示や備蓄食料の配布などが行われました。また、体験コーナーでは、多くの子どもたちが高所作業車への搭乗や、綱渡り・消防防火服の着脱などを体験しました。

☆子どもたちが通学路の危険箇所をチェック

セーフコミュニティ活動は、全く新しい活動を始めるというものではありませんが、今ある活動にプラスアルファすることでセーフコミュニティ活動につながるのです。そんな活動例を皆さんにご紹介します。



▶清掃活動をしている子どもたち

10月13日(土)、松原北小学校区土曜子ども体験活動の中で子どもたちと保護者による通学路の危険箇所チェックが行われました。

これは、クリーンキャンペーンとして清掃活動をしながら、通学路に潜む危険箇所の把握を行ったもので、約30人の小学生が参加しました。松原北小学校を出発し、いつもの通学路を歩きながら、溝や通りに落ちているゴミを拾っていきました。クリーンキャンペーン終了後、地域の白地図を広げ、危険だと感じた個所にシールで目印を付け、なぜその場所が危険だと感じたのか、参加者みんなで情報共有を行いました。子どもたちや保護者からこんな意見が出されました。

●車の往来が多い交差点が危険だと感じた。
●ガラスの破片など、不法投棄されたゴミが多いところで転ぶと危険。
●みんなで参加してゴミ拾い活動を続けていけば、自分たちの住むまちをきれいで住みよいまちにすることができる。
●ゴミの問題も危険箇所も一人ひとりが意識するだけで、まちのきれいさや事故の件数が変わるのではないかと。通学路の清掃活動と危険箇所の把握を同時に行った今回の活動。一工夫するだけでいつもの活動がセーフコミュニティ活動に変身します。皆さんもぜひ考えてみてください。

問合せ 市民安全課



松原第四中学校区
地域教育協議会
会長 松下信子さん

クリーンキャンペーンを始めてもう7～8年になります。今年は天気にも恵まれて、多くの小学生に参加してもらえました。地域の安全を守るにも、現状何が危険なのか把握することが大切。これから他の小学校区でも、いろいろな活動と連携させて安心安全活動を進めていきたいと思えます。

- ニュース松原
- 情報ひろば
- 福祉
- 健康
- 消費生活
- 労働
- 環境
- 保険年金
- 子育て
- 相談
- 子育て応援コーナー
- 各種相談
- 素敵に生きよう
- 歴史ウォーク
- ひゅーまんフェスタ
- しゅぼくす
- 講座イベント
- スポーツ
- 図書館
- 地域交流
- みんなの広場
- イベントガイド